令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立第二東中学校)

学 校 教 育 目 標 「輝く笑顔 二東生」 目 指 す 学 校 像 ○ 笑顔 (スマイル) があふれる学校 ○ 保護者、地域とともにある学校 ○ 勤めてよかったと思える学校

1 生徒用タブレットを活用し、「学びの指標」を意識した「生徒が主体となる」授業づくりの実現 2 生徒指導・教育相談の充実を基盤に、安心・安全で快適に過ごせる学校づくりと確実な管理 重 点 目 標 3 学校運営協議会を中核とした、「地域とともにある学校」づくりの実現

4 安心・安全で快適な教育環境の整備及び予算執行の適正化

5 情熱と使命感をもち、生徒・保護者・地域に信頼される教職員の育成

 達 A
 ほぼ達成 (8割以上)

 成 B
 概ね達成 (6割以上)

 度 C
 変化の兆し (4割以上)

 かたした評価項目は複数設定可。
 D
 不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、 方策の評価指標」を設定。

学校番号 240

			学 校	自己	評価		学校運営協議会による評価
	年	度	目標		年 度	評 価	実施日令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	成度 次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学びの質の向上に関する取組】 (現状) 〇R6 全国学力・学習状況調査において、国語は全国平均 と同等、数学は4.5ポイント上回った。 〇R6 市学習状況調査(国・数・社・理)において、1・ 2学年とも、市の平均を下回った。「授業の内容が分 かる」と肯定的に回答した生徒の割合は、市平均をや や上回るものが多い。 (課題) 〇R6 市学習状況調査において、「主体的・対話的で深い 学び」の項目が、市の平均を下回ることから、「課題 解決に向け、自分で考え、自分で取り組む」授業や 「話合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新た な考え方に気付いたりする」授業づくりが必要であ る。	・「主体的・対話 的で深い学によって の授業改善に表 を生徒主体の実現 ・生徒用タブレットを トを調査のな学での 一体的な充実	①生徒用タブレットを効果的に活用し、「学びの指標」を意識した生徒主体の授業づくりに向けた授業改善を行う。 ②学校DX 推進部を中心に、ICT支援員訪問を計画的に活用し、全教職員を対象にICTを活用した授業の公開、指導案のデータ化、共有化とその活用を行う。 ①協働学習用ソフトやデジタルドリル教材、デジタル教科書等のICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ②朝読書やチャレンジタイムの時間を確保するとともに、チャレンジスクール(漢検・教検・英検の実施含む)への参加を通して、個に応じた学びを推奨する。	①「学びの指標」第2回の4項目における校内平均を昨年度を上回る3.3以上にすることができたか。(教職員) ②学校評価「授業有効に活用できている」の項目において、存ずを有効に活用できる9割以上にすることができたか。(生徒) ①学校評価「授業に集中して、積極的に取り組んでいる」「授業が分かりな回答を9割以上にすることができたか。(生徒) ②年間において、肯定のな回答を9割以上にすることができたか。(生徒) ②年間を通して、朝読書・チャレンジタイムの時間を確保し、チャレンジスクール(漢検・教検・英検の実施含む)を年間20回実施できたか。			
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 (現状) ○R6 市学習状況調査において、「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」「先生はあなたのよいところを認めてくれている」項目が、市の平均を上回っている。 ○学校評価「先生は相談しやすぐ、相談に適切に対応している」「安心・安全・快適でいじめを見逃さない学校づくり」の項目において、生徒の肯定的回答が9割を超えている。 (課題) ○生徒一人ひとりに寄り添った組織的な支援体制の構築と学校内外の専門機関との連携・協力が必要である。 ○教職員自らが、常に人権意識を磨くとともに、生徒の異変やトラブルにアンテナ高く察知し、共有を図り、組織的な対応を図ることが必要である。	・いじめの問題や 不登校等の未然 の防止、早期発 見と対応を内支 ための校内支援 体制の充実	①毎週開催する生徒指導委員会と教育相談部会にないて、特別な支援や配慮差数等生相談異生を図るとともに、養護教諭・した支援につなげる。必要に応じて校外の専門、機関との連携を図る。 ②生徒を保護者の状況や支援の必要性に定じて、Sola ルームやオンライン学習、の個に応じた選択肢を提示し、適化を図る。 ③「心と生活のアンケート」を含む毎月の一適にを図る。 6、心と生活のアンケート」を含む毎月の一適切な支援や相談により、いる。サーター等により、財産が関切な変見・早期解決につなげる。 (全議や研修を通して、教職員自身の人権感覚や言語、環境を向上させ、教職員自身が系範を記載の表述。	①学校評価「相手を思いやって、学校生活を送っている」「先生は相談しやすく文全・相談に適切に対応している」「安心・安」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(生徒)②学校評価「思いやりや豊かな心を育む教育」「相談に適切に対応している」「学校・適切に対応している」「学校・適切に対応している」「学校・適切に対応している」「学校・適切に対応している」「学校づくり」の項目において、肯定的な回答を8割以上にすることができたか。(保護者)③学校評価「生徒指導」「教育的な回答を9割以上にすることができたか。(教職員)			
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○R6 市学習状況調査において、「地域とのかかわり」の項目すべてが、市の平均を上回っている。 ○現在までの学校運営協議会において、育てたい生徒像「あいさつができる生徒」について、共通理解を図った。 ○保護者や地域に学校行事や授業の公開を行い、地域とともにある学校づくりを推進している。	・学校・家庭・地 域で共に活動す るコミュニティ・スクールの 充実 ・ICT ツール等を	①あいさつの大切さや意義を考えさせ、育てたい生徒像「あいさつができる生徒」を育成する。 ②学校運営協議会等を通じて、大宮区と見沼区の情報を収集し、生徒・保護者・地域が協働できる場を実現する。 ①学校連絡アプリ「スクリレ」を活用した生徒	①学校評価「進んであいさつができている」 の項目において、肯定的な回答を9割以上 (生徒)、8割以上(保護者)にすること ができたか。 ②学校評価「地域の人々と協力し合い生活し ている」の項目において、肯定的な回答を 9割以上(生徒・保護者)にすることがで きたか。 ①学校評価「参観の機会を適切に設け、様子			
J	 ○PTA 組織の取組が、本校の教育活動の後押しとなり、生徒の安心・安全につながっている。 (課題) ○情報化とともに個人情報保護等の社会状況を踏まえ、学校からの情報発信を積極的に行うとともに、土曜授業や学校行事等の保護者・地域への学校公開の機会を適宜実施していくことが必要である。 ○生徒の地域における行事やボランティアの参加による地域を担う人材の育成が求められている。 	活用した情報発 信と、教育活動 参観機会の設定	の教育活動、校外での活躍等の配信、学校H Pの時宜的な更新等により学校の情報を広く 公開する。 ②学校運営協議会の様子を知らせる便りを発行 し、学校・家庭・地域が一体となった活動を 共有する。 ③学校教育活動の参観、公開を適宜実施する。	をわかりやすく伝えている」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(保護者) ②授業参観や学校行事の学校公開を年7回以上実施することができたか。			
4	【教育環境の整備に関する取組】 (現状) ○学校評価「美しい環境づくり・校内環境の整備」の項目において、肯定的な回答が生徒・保護者とも9割5分を超えている。 ○開校41年目を迎え、施設等の破損や劣化が見られる箇所がある。 (課題) ○生徒にとって、心身ともに健康で居心地のよい Well-	・施設等の破損に 係る修繕及び環 境整備による安 心・安全・快適 な環境づくり	応を遂行するとともに、必要に応じて市教委との連携を図り、経過観察を行う。 ②生徒委員会を中心とした、清掃・備品管理及び清潔で季節感のある環境を維持する。	①学校評価「美しい環境づくり・校内環境の整備」の項目において、肯定的な回答を9割5分以上にすることができたか。(生徒・保護者)②学校評価「生徒会活動」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(教職員)③施設等の被損に係る学校事故を防止することができたか。			
	being (幸せ)を感じられる校内環境づくりが必要である。 ○施設等の破損や劣化に係る修繕や、月例実施の安全点 検後の速やかな事後対応により、学校事故の未然防止 を図る。	・予算執行の適正 化による安心・ 安全・快適な環 境づくり	①会計担当者会議の定期的な開催及び PTA による中間監査の実施による予算執行の管理を行う。 ②事務職員との連携による予算執行の管理を行う。	①学校評価「庶務会計」の項目において、肯定的な回答を 10 割にすることができたか。 (教職員) ②予算執行に係る管理を適正に行い、確実に執行することができたか。			
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 (現状) ○ストレスチェックの結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かした OJT が進められ、い環境にあることが分かった。 ○学校課題研究を中心に、ICT の活用等、校内研修が計画的では、教員や年齢が若い教員の割合が増えてきていることから、職場における充実した OJT と学年や分掌等による連携・協力体制の確立、組織的なな体制づくりが必要ともに健康で、居心地のよい環境で働くことができ、とを記したのは、場環境づくりが、生徒の Well-being にもつながることを意識求められる。	・協調と創意を基 盤として、挑心で といって を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	①校務分掌等、担当者同士のコミュニケーションを活性化し、OJT や PDCA サイクル等を実現する。 ②学校 DX 推進部を中心に、校内研修の充実やICT を活用した業務の効率化・共有化を図る。 ③教職員間のコミュニケーションを大切にする言語環境を整く相手を守事重している協力することでよりよい解決で見出しているチームアークを計画を策策を見出しているチームの積極か・計画的な取得を促進し、心身ともに健康な状態を維持ることできるようにする。	①勤務に関する意識調査「風通しのよい職場環境・悩みの相談・業務の相談・協働し合う体制の整備」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(教職員) ②研修・会議・電子掲示板等の情報提供や情報共有を通して、ICTを活用した業務の効率化・共有化を図ることができたか。 ③教職員各自で計画した自己評価に係る「研修」「働き方改革」について、予定通りに進めることができたか。			